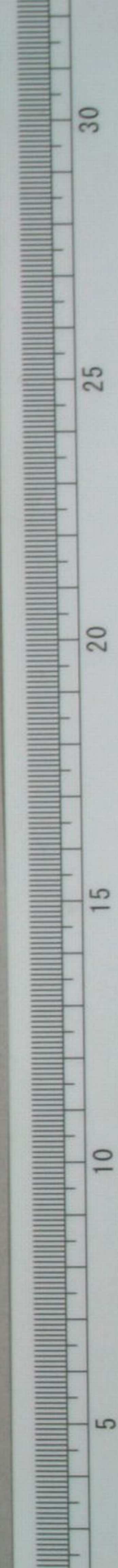


明治廿七年五月

寸陰換歷錄

(2)

特別
イ4
1919
206



高碑乃大禹所紀治水之事原在衡嶽响嶺峰
古未有見者韓昌黎字青石未奉斜倒薤
之句特述道士口說耳自何賢良為推者所導
攀巖越菴得一見碑既奉之刻于山嶽林森山
其文始傳第字大不廣又皆駁泐難以撮取好古
者懸梯而上勉為鈎填而彼此異同意象寢失
建甯親詣碑所自摹之復參考世本從其
同者刻于大別山流傳漸廣今觀西安之石也碑

東橋原製

碣多行而秦漢以上缺焉因再刻此得天下後
世咸得大禹遺文為金石之冠其辭文有三家
一楊慎全注于中一沈鎰注于右一楊廷相注
于左大同小異並存以俟博雅君子重加賞
識云 康熙丙午秋日

昆陵毛會建謹識

序云云々々范石湖詩句の楊石のここと
昔のここと々々范石湖の四絶句を題
して佛照源のここと々々を別記
のここと々々刻してここと々々を阿育王山の

聖最の右野佛也 浮河と書へり

又阿育王山徳光の細楷は左の如く由来を記し
てり

冬政資政范公辛丑季春移鎮金陵迂顧山阿登
明月堂覽山川之壯麗乃歎之無窮龍蛇
故迹凌跨今古野人得之不敢緘符謹刻堅珉
以後嘉貺云秋八月任阿育王山徳光題

以上此の碑の大略を記す

○阿育王山佛物部多末くの古碑をこの所に
しとあるは阿育王の出すけと一とあるは元とあり
漢の書に紀泰山銘の撰らるる掛丹輻と

うろと海別してありんを開元十四年云
字に皇帝の泰山の書に云んは形さ
てんはまをいふ銘の末に大唐開元
十四年泰山在景云九月乙亥朔十日庚戌
建とある、以て三丈八尺四寸横二丈三寸八分
寸と云ふ大碑かあるは碑銘の五と云ふ
てもうすしといふは六丈に上り而る刻
也此の如く不測の摩崖の碑であるは五
寸四方位に字數を凡そ千位あ
るは、此の碑の内部に阿育王の
歴々の阿育王正極奇跡と日明記し

二二〇〇〇〇〇、今有海列し之ありんあ
名之也揚げし之あり

一 王忠嗣碑 唐五橋古

一 唐化國陸先妣妃碑 市川寛斎書

一 温彦博碑 唐政隆詢古 市川寛斎書

一 雲麻毛の中張安王墓誌 市川寛斎書

一 七佛偈 黄庭堅

一 全副陀 (飛脚上)

一 唐成志元碑 市川寛斎書

一 唐李陽冰の篆栢元松玉記



一 李輔光碑 唐巨雅古

一 魏言公碑 古

一 懿候高貞碑 古

一 興福寺半截碑 唐王長三古

一 魏馬吟寺根本師碑 古 後魏正光四年

一 比邱尼白玄公等造像記 魏天平

一 魏司馬景如妻墓誌 古 市川寛斎書 清紀數集

一 秦漢瓦片文字 古 市川寛斎書

一 漢三志律字忌日記 古 市川寛斎書

一 漢史長前碑 古 市川寛斎書 漢建武二年

- 石鼓文 二幅 月史抄搨
- 禹岫樓碑 伝夏后氏の代
- 李斯碑 山碑
- 契苾明碑 唐 殷元祐寺 市川新島
- 石港碑 伝
- 蕭山寺碑 唐李北海書 市川新島
- 漢司龍校尉魯峻碑 八分書
- 漢泰山都尉孔宙碑 八分書 市川新島
- 漢李翁池五瑞圖 市川新島
- 漢高山少室銘石闕 篆
- 北梁初書畫像 全画 石刻 漢代

東林庵

古俗えんしんある又別書ハ八角の郵便
 形形の石幢一基 柵をそのえんを以
 こ七雅うしひあうハ雨ノ御守の
 刻を心ある其の指を自ら別一幅し
 七揚げをあるをいんを唐咸通石幢心
 法四洲北総著端方う秋しに子えうふ
 うを鑑る一千三十七年あるのしんある
 多くをみるは才五回由四坊遠なるの
 節端方うをうく出るしにうあるう
 等の後坊お終一奇絶しにうあるう
 る該文の咸通元年とあるうに元千

ある年代のものはあつていつてゐるが、
そのうちいつか飛鳥の代に人の書か
ひあつたことと推して

○古書に土坑を掘ると毒地といふやうに
ゆきかゝつて元々地が硬く重く織りこむ木地
の故に直流しがつた地がゆつてつるを
と上茅のまゝの子である。またこれを掘り
用ゑればゆるみを散らしのみにあつた
うまうまう解るが、比々といふの重く
まゝの土坑は、土を掘りしつてあつた
と云ふことと推してあつたといふこと
と云ふことと推してあつたといふこと

東林堂

以人の供養の日記の自告しに流し又を
とびと用ゑるうへに書かすしにそのあ
つたことと推してあつたといふこと
へ金泥を云々描えしつてを流しと推し
又散らし古の上部に柳の葉を散らし
あつたものには心も断つてあつた。毒
坑のあつたことと推してあつたといふ
ことと推してあつたといふこと。後
に貴人の書かす供養の日記にあり、
後四十九日即ち四十九日

書くことなほ改竄の戦況録をきりた二の
間も海軍精細な説しあつた中
録は其の一冊ありきことが出来た
のまじら遺儀ひあつたが、~~海軍~~ 記念のため
に其節考つた各課を部へ送付し
圖二枚をこゝに貼まつけしことあり
二三日の説を書きつけしことあり

第一軍と野隊は河川と風風陣を
出せしと考へた攻めを行進し
凡そ九の州ありしことあり、即ち第一軍は
の兵馬は名をとりて糧秣を令せし運送

東林堂

すこと、一は打つ井とすこと九の河川
と云ふことあり、七はせんふとありしもの
貨車一と武輜とありしことあり
と八の輜をありし、即ち九の河川七千二百
輜をありしことありしものありしが、七は倫
とんだげの車輜とありしことあり、道路日
敵、助言をせ天候の好悪が、七は七の
をせ九の河川とありしことあり、而して
第一団隊を先づけしものありしものありし
り得難いことあり、其次は行進中ありし
に出遇つたことあり、車輜は是れあり

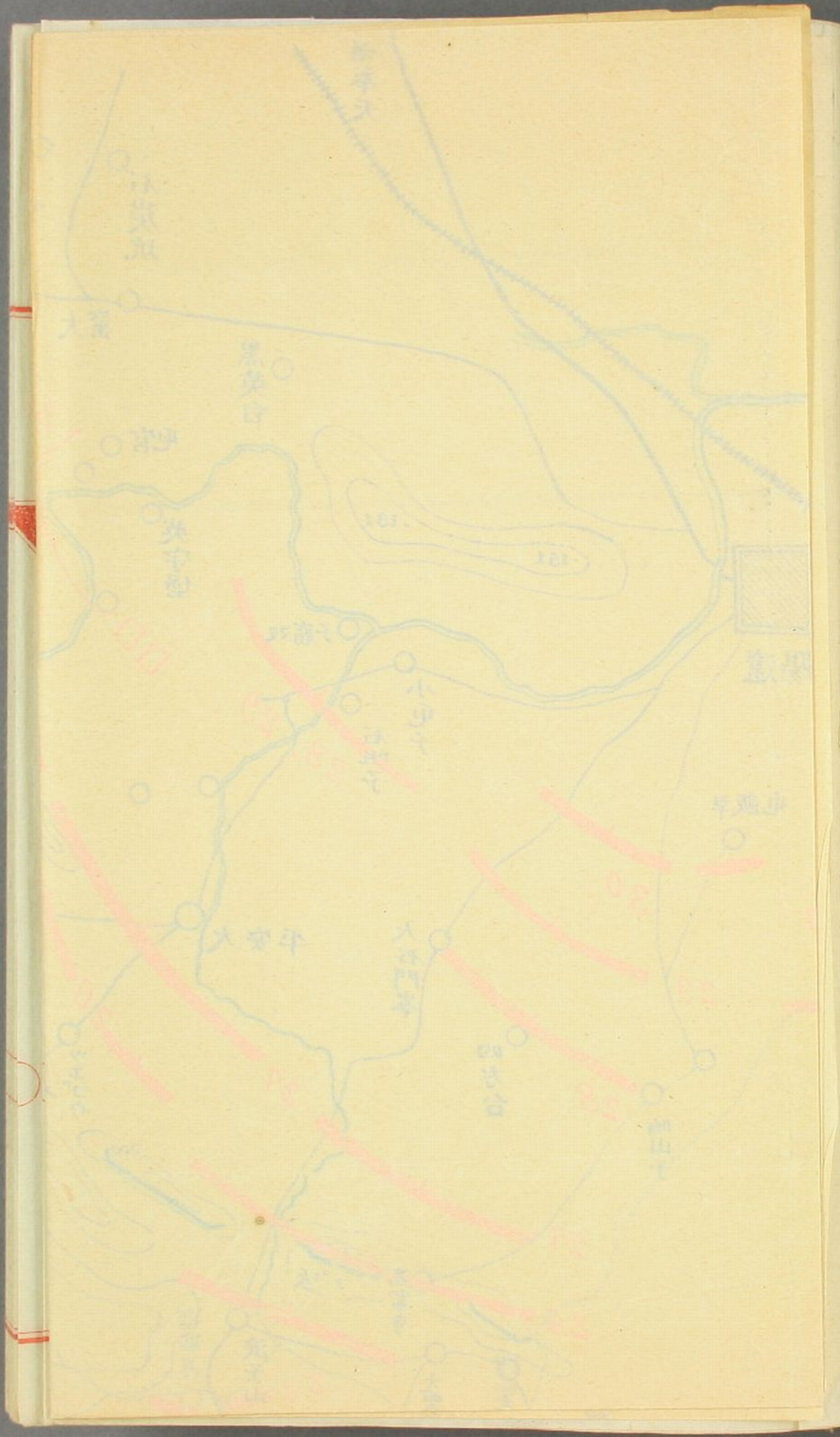
以上を糧秣と軍隊の教へあるは、
ふいふと出来まい、地を軍隊も
と、出来まい、地を軍隊も、
困難の出遇つた上、
論、徒勞し難い、
あつても出遇つた上、
ハ定まらん、
の輸卒の、
ふいふと出来まい、
七、
ふいふと出来まい、

東條氏

とんと言ふ、
い、
一、
福、
理、
と、
人、
共、
由、
供、

ぶらうく、空のまこと、占領の出来さうに
 され、占領し、その後、敵をまわく、獲る
 逆転をもつた、其の逆転のせう、方々とも
 日又上げた、まゝ、言ふ、思ふ、教ひあるが
 こんを、整平して、陣地を、支え、得たのを
 物、興り、まゝ、再、敵、こゝ、一、層、強、よ、強、心
 ひ、あ、る、の、か、或、る、情、人、を、控、え、少、銃、を、以、て
 大、砲、と、開、つ、た、又、或、る、情、人、を、控、え、を、断、崖
 係、聖、の、敵、情、を、控、え、上、は、り、~~一、層、強、よ、強、心~~
 上、と、し、り、其、人、を、投、げ、さ、げ、さ、る、の、為
 り、二、三、の、人、を、獲、る、と、い、ふ、~~一、層、強、よ、強、心~~

東林堂藏

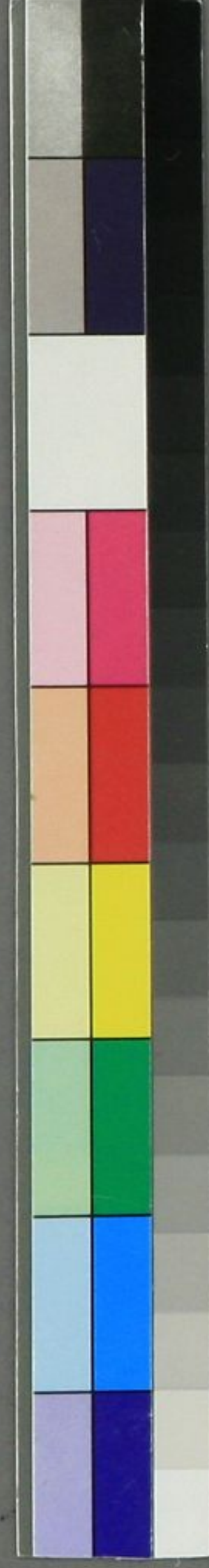




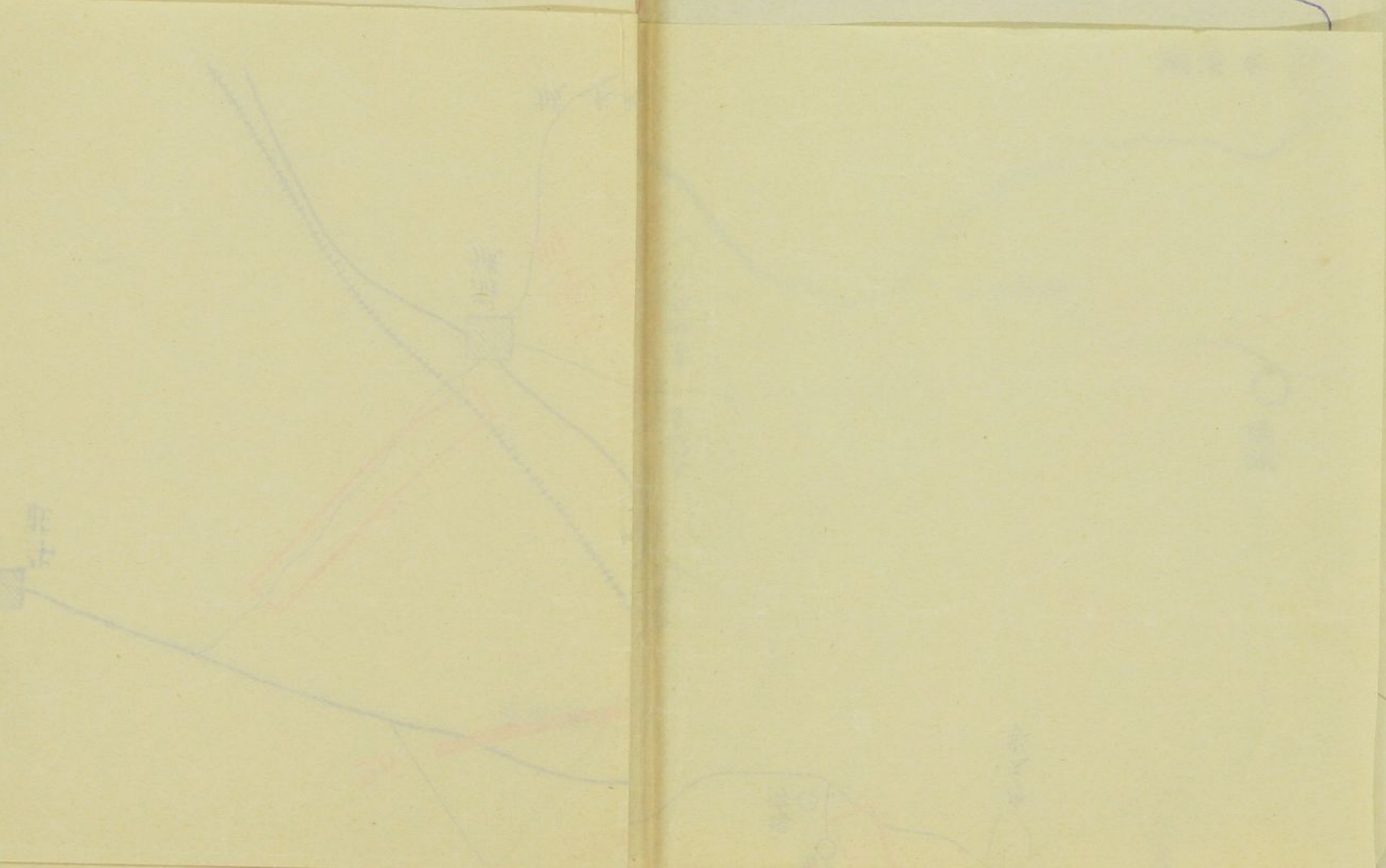
Handwritten vertical text on the right edge of the map, likely a title or a note. The characters are in traditional Chinese script.



A vertical ruler scale on the left edge of the image, showing measurements in centimeters and millimeters. The numbers 40, 50, 60, 70, and 80 are highlighted in red.



第一軍進路攻撃図乙 (参考本邦製)



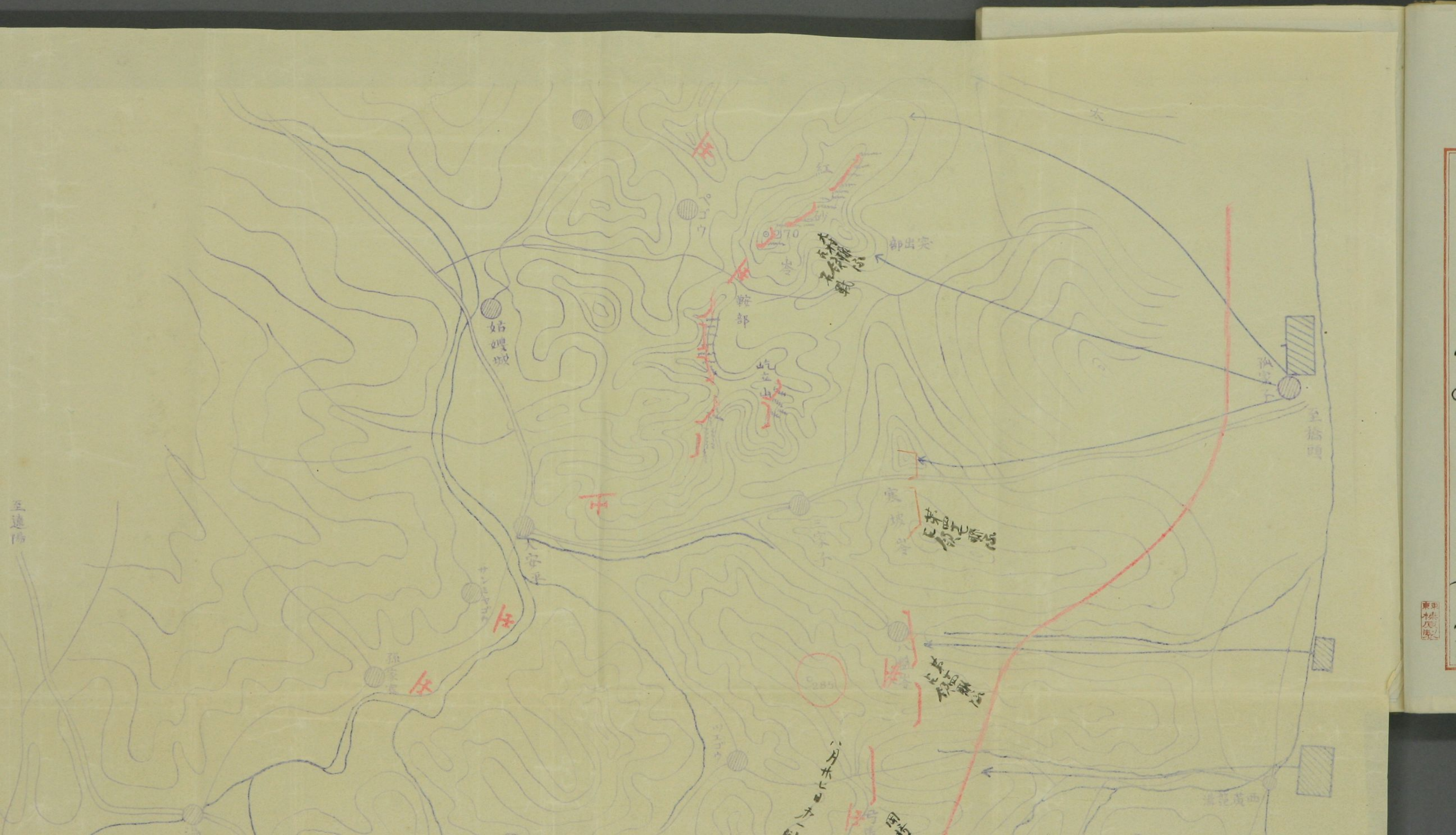
北東

逆転をせりつた、其の逆転のせりつた方々を
 目上上げた、いふ言ふ、其の逆転のせりつた方々を
 せんを、其の逆転のせりつた方々を、其の逆転のせりつた方々を
 物、其の逆転のせりつた方々を、其の逆転のせりつた方々を
 此の逆転のせりつた方々を、其の逆転のせりつた方々を
 大に、其の逆転のせりつた方々を、其の逆転のせりつた方々を
 上、其の逆転のせりつた方々を、其の逆転のせりつた方々を
 め、其の逆転のせりつた方々を、其の逆転のせりつた方々を

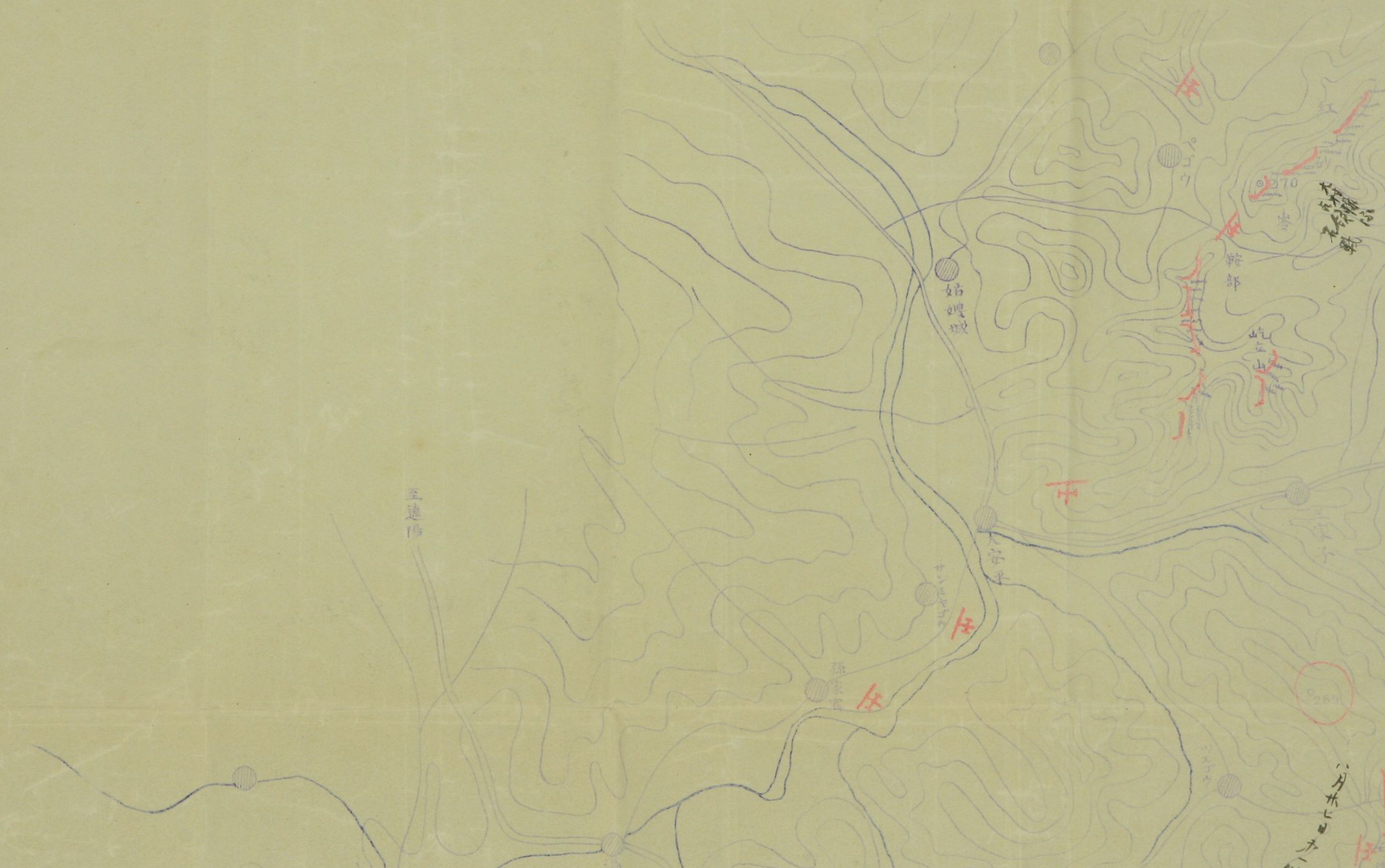
東洋製

炭門に破んじ目以上破れ木の傷心オ二炭門
あるお容ろく破ん○通に破んかことき合ふ
の跡おを得たのひき

○古器作らばけり著る終る熱心んそそそそそ
終るすーが言ふるあーい時格のなつ子
校るしなうーたお作の活活中ー再終るし
いことをやめえれ、とんそりあうそそそそそ
終るの終る終る三つある、オ一とオ二終る
終る終る終るの終るオ二とオ一とオ二とオ一
時を報る終る終る終る終る終る終る終る
外よりとるたいと、お終るふふんた、北由長尾終



廣東省立圖書館藏



五里店

姑嫂城

孙家寨

新寨

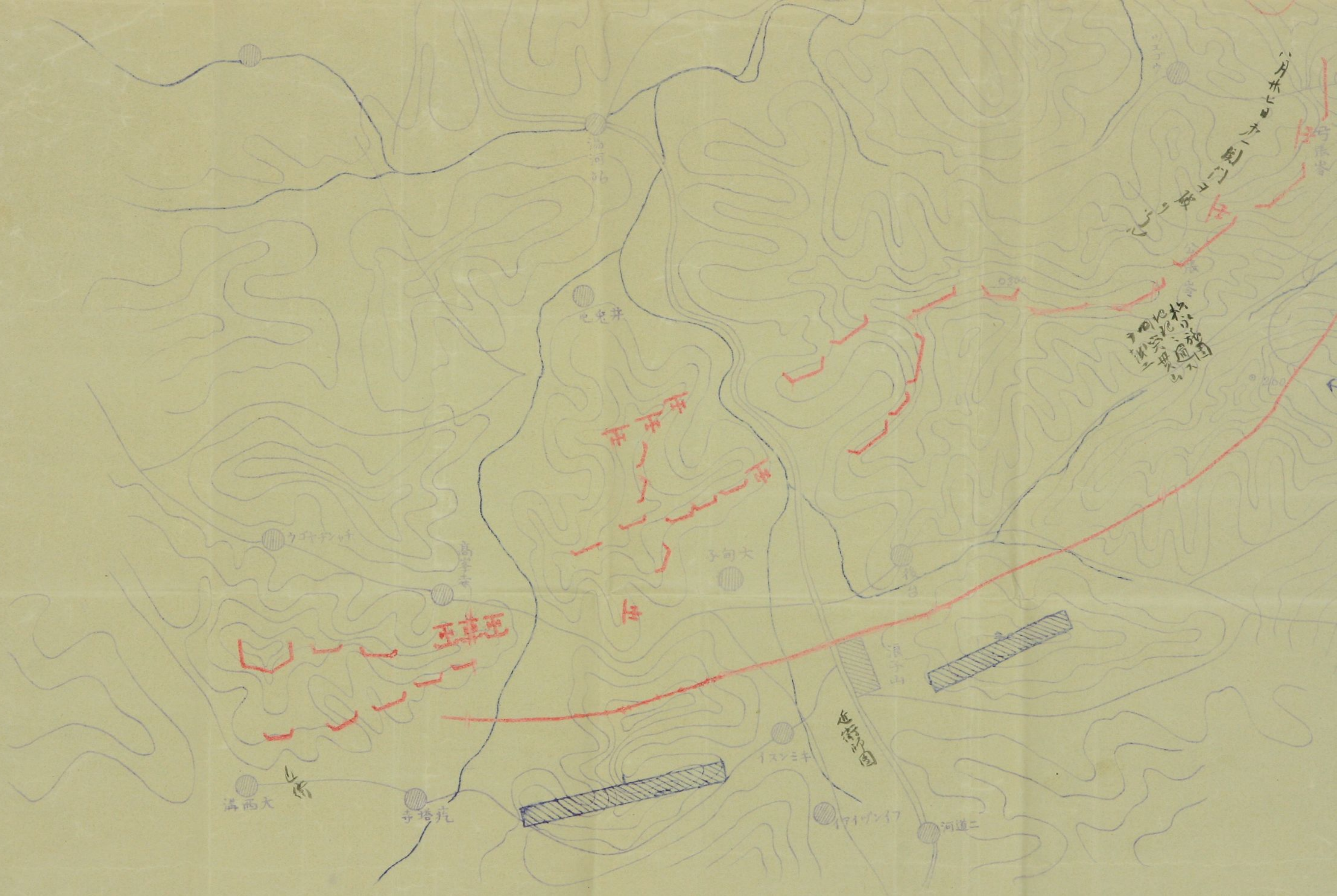
山立

大木

家子

小水





所よりとお定め、四十餘人利為手代
 を進ませし一人一七七の役目はとて内金
 欄入の御郡内絹類一人羽二重一人納
 侍新入紅袴一人麻袴一人毛織
 袴一人北こしき手分七、天我子絨一
 寸四方綴子毛板代七、こしき、緋襦子
 鍔印長龍つもの袖裏袴あはくも
 物の自由、毛織一人、珠更俄目元の熨
 斗目いそぎの羽織もをも、女使をま
 ねを數十人の手前細工人三、こしき印
 度、目仕立、こんをほしぬ、十、ぬ、こしき

東條屋製

七家榮え毎の多子なるゆへあつて
 一、高き一、けり、こしき、世の重なる是
 とあり、此意下をも見ゆ、目白界、手立
 あり、外の人、あけつ、ゆき、こしき、あつて
 二、あけつ、こしき、一、大商人の手をさる
 べし、いろは、引出、一、唐、和朝
 の絹布を、こしき、品々、代絹
 中の姫の手織の綾、人丸の、あつて
 河、代、こしき、朝、こしき、あつて
 切、を、大、師、の、あつて、井、和、朝、
 摺り、あつて、三、條、小、鍛、込、り、刀、代、あつて

朝鮮政府の力が出版したものと比べると
増量するところがあるが、言の永楽は
宣統へうつけてしる（即ち我は我のころの
永の比也）朝鮮の流言をが挿入の進出
の極にふたし、此のめあつたのが、即ち我の
くもふさんで大學新義の跋文を後と
流言らるる書物の執筆者として永楽の如
年ころ宣統九年（即ち平本の本）
の三日月の夕方ころ、四代目と代目と追々
あつたといふ余のそれとを後と
つたといふころあつたといふので、さう

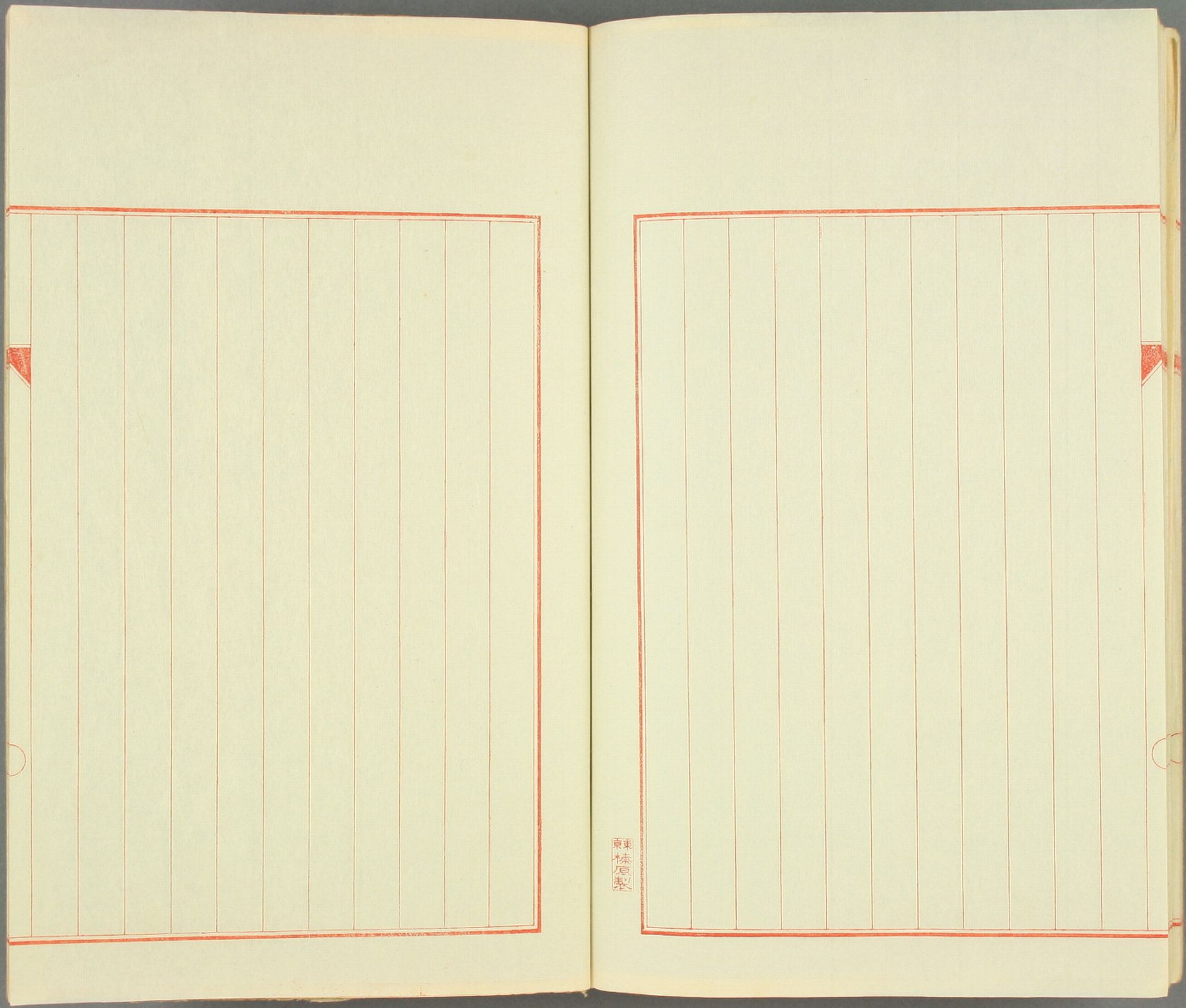
東洋堂製

此の本の流言は、ころころ大きく、跋文の秋
邦の大なる書を二つあるが、後とすといふ
十五冊の二部を合して、流言の大きさを
も先かたりの三つを位にあらわす。跋文の
風の流言は、概してあつて、平本もさう
後である。跋文の記すところ、永楽の如
年、韓のころ、内帛を巻いて銅の流言
を鑄ら、めんとすといふこと、あつたといふ
ころの永楽は、平本の流言をあらわす。流言を
改鑄し、平本の流言をあらわす。宣統九年
ころ、東洋堂が改鑄したといふこと、

○代をのりてしむるはたぬまきしし
しむる(細川同家書)二十一年比出
殿二冊(の)とてらるるは浮舟七七行付
は而もあつしめしむるは終る二冊
留るる二冊を誤るるぬと有る二
冊をおぢん(の)とてらるるは百枚

東林堂

一あしし一人の能入るる金を懐し
竹俵路とあきけしと淋しき山入る
みききとらけしとあし一人のあし
あしとらけしと附海ひ来る女物あし
少就まやあしと思ふはしとらるる
しむるけりおしとまた一人の男来りし
容来れしと物もしけしとらけしと
まをししとあしを物とらるる
まをししとあしを物とらるる
は行方を測ひて次の駅まではひ行くし



東
林
原
製

以下全て
白紙

明治三十七年十一月
一月上浣起筆

才女姚淵人